

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201263		
法人名	北商株式会社		
事業所名	グループホーム ライフケア北倶楽部		
所在地	札幌市北区北28条西12丁目3-13		
自己評価作成日	平成27年6月1日	評価結果市町村受理日	平成27年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が何処にいてもゆったりでき、笑顔の絶やさない明るい場を目指します。
---------------------------------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201263-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201263-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年6月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ライフケア北倶楽部」は、地下鉄北24条駅からバスで5分程の大通りに面した商店街の一角に立地している。バス停にも近く、利便性に優れた事業所である。新しい管理者は、ケアマネージャーと共に法人本部担当者の指導に下に、運営やケアに熱心に取り組んでおり、前回の外部評価で課題となっていた事業所独自の理念も職員と共に新たに作成している。法人研修や毎月の内部研修など、職員の育成にも計画的に取り組んでいる。記録類はすべてパソコンで管理しており、プライバシーに配慮し充実した記録を行っている。事業所独自のアセスメントシートは、利用者の現状が詳しく把握できるように書式を工夫している。食事が楽しくなるように年間3回程パンやケーキ、中華などのバイキングを行ったり、本人の誕生日以外にも各利用者の好きなものを聞いて献立に取り入れている。年間を通して外出する機会が多く、花見や紅葉狩りその他、工場見学やサファリパーク、百合が原公園などに出かけている。本部担当者や管理者は、日頃から職員の意見や提案に耳を傾け、運営やケアに反映させている。今後は、法人として家族アンケートの実施なども検討しながら、家族の率直な意見を運営やケアに更に活かしていきたいと考えている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき、利用者様が安心して生活できるように日常的にスタッフ間で意見交換し、支援の工夫と実践を行なっています。	法人共通理念の「私達の4つの望み」に、地域密着型サービスを意識した項目を掲げている。「笑顔」という事業所独自の理念を新たに作成して職員間で共有しているが、法人理念に対する理解はまだ十分とは言えない。	定期的に法人理念を振り返り、職員間で更に理解を深めるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に町内会の行事や交流会、展示会などに参加させて頂き、施設内での行事にも参加して頂いています。	町内会の夏祭りは、利用者の見学場所を準備してもらい出店を楽しんだりミニ運動会に参加している。また、婦人部主催のレクリエーションで楽器演奏を鑑賞している。事業所のバーベキューに近隣住民が参加したり差し入れを戴くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、具体的事例や対応方法について話し合い、その結果についてもスタッフミーティングなどで検証しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで通り民生委員や町内会、地域包括支援センターの方々と意見交換させて頂き、利用者様への支援へ活かしています。	議題を入れた会議案内を送付して、権利擁護や虐待防止、避難訓練、口腔ケアなどについて学んでいる。毎回議題を工夫しているが家族の参加が殆どないため、今年は事業所行事と同日の開催を検討している。議事録は全家族に送付している。	テーマやミニ勉強会など具体的な内容に沿って事前に聴き取り、参加が難しい家族の意見や疑問などが会議に反映できるような取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	これまで通り管理者会議などに参加し、本部担当者が市町村担当者と連絡を取り、連携に努めています。	ケアマネージャーは、介護認定の更新手続きや家族からの相談を受けて区役所を訪問している。また、日頃から保護課などに顔を出して連携を深めている。管理者は、保護課の担当者が来訪した時は本人の状況を伝えながら相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体として身体拘束排除宣言を行なっているが、様々な事例において日々検証している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した法人共通のマニュアルを整備している。外部研修の伝達研修や内部研修の他、ベッド柵など具体的な事例に沿って検討しながら拘束しないケアに取り組んでいる。食卓椅子も動きにくかったため、拘束に当たらないか検討して移動やすい物に変更している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	直接的・間接的な虐待を防止するため、日常的にスタッフ間で意見交換を行なっている。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を使うまでには至っていない利用者様ばかりですが、必要になった時には支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本部担当者が事前に説明を行なった上で契約いただき、変更点が生じた場合は事前に書面で通知した上で了解いただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様には行事参加時には意見交換を行い要望をお聞きし、参考にして頂いています。	家族の来訪時に利用者の状況を伝えながら、意見や要望を聴き取るようにしている。家族の意見は個別にパソコンに入力し、職員間で情報を共有している。今後、法人として家族アンケートを実施したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングを開き、意見交換や提案を報告しています。本社からの個人面談や電話などで、個人的な意見も話しやすい状況になっています。	管理者は、日常業務の中で出された職員の意見や要望をミーティングで取り上げて検討し、運営やケアに活かしている。本部担当者が来訪する機会も多く、管理者や本部担当者に話しやすい環境であると職員は感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	生活環境や脳力をよく把握した上で雇用条件を決め、労働意欲を向上させるようなスキルアップを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった外部研修を選択し提案を行なっています。年間の研修を計画しスキルアップを行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、同業者との連絡調整を行い、より深い係わり方に勤めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族より本人の状況聞き取り及び本人の要望を十分に踏まえた上で、メンタルケアに重点を置いて支援しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の要望、ご相談に出きる限り対応に沿うように心掛けるようにしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要介護状況に応じて本人の状態に沿うように自立を目指し、必要な支援のみを行なっています			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事はお手伝いし、出来る事は見守りながら行なっていただいています。利用者様が進んで出来る事の役割を持って頂くようにしています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へはご本人に対するメンタル面での接し方をスタッフが補いつつ、一緒に相談し係って頂く様にしています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新しい地域の取り組みに協力できるようにを、目標に心掛けています。	宗教関係や近所に住んでいた友人が来訪する事もあり、一緒に食事に出かける利用者もいる。家族とお墓参りや外出に出かけている。職員と一緒に、買い物レクで近所のスーパーに出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係も十分に把握し皆がお互い関りあっていけるように、支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後も状況把握の為、関係者との連絡を持ち必要に応じて支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望を聞き入れ、常にスタッフで話し合い対応しています。	会話や行動、表情などから思いや意向を把握している。アセスメントシートを6か月毎に更新して、新しい情報を蓄積している。現在、全利用者のアセスメント用紙の書式の統一に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	買い物、外食、外泊等、自由に両者のニーズに対応したサービス提供を心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動観察、コミュニケーション等で、身体・精神など把握し協力支援を行なっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、スタッフが全員で意見交換をし、介護方針が共有できるように行なっています。	担当職員の評価を基に、ケアマネージャーを中心に本人や家族の意向を反映させて3か月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画に沿って、変化や課題など日々の記録を充実させ、介護計画の見直しに更に活かしていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	データベースシステムの利点を十分に活用し、介護方針が共有できるように話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望、ご家族の状況を把握した上で外出・外泊の調整をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して生活、行動ができるように配慮し、地域との交わりを増やそうと心掛けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の要望もあり、今までと同じ医療機関を利用している方もいます。他医療機関受診希望の場合は、往診の先生にも紹介を頂いています。	家族や本人の意向で、かかりつけ医に利用者が一人で定期受診に行く事もある。変化があれば、家族から受診結果を聞き個別に医療情報を記録している。家族が受診に同行する場合は、口頭で健康状態を伝えている。	

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな事も伝え、スタッフ同士で決めず、看護師・担当医へ連絡しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院後には医師やソーシャルワーカーに治療・リハビリ計画を立てていただく際の詳細な情報提供を行い、協力関係を築いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携し施設として可能な限りの対応を行なえるようにスタッフ一同取り組んでいます。	「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って利用開始時に説明し、体調変化に応じて主治医と家族、事業所間で方針を話し合っている。今後は重度化の指針を説明した時点で、家族の署名捺印を得ることを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の緊急対応は常に話し合い、スタッフルームにも貼り付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様と一緒に月2回自主訓練をしています。夜勤のみの訓練では年2回消防署立会いで行なっています。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を行い、年1回は消防署や地域の協力を得ている。自主訓練も2か月毎に実施している。地震を想定して、家具類の安全確認や入浴中など具体的な事例に沿って検討する意向である。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉使いや表情に気を付けながら対応しています。個人を尊重するよう心掛けています。	利用者の呼びかけは苗字か名前に「さん」付けとし、接遇などの外部研修を受講したり内部研修を行っている。個人ファイルは事務所で保管し、記録類はパソコンで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定能力を損なわない程度に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気持ちを優先し、希望に添えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事(七夕)などには、浴衣を着たり、化粧をしたり楽しみながら、おしゃれに意欲を持つように支援しています。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただけるように、外食レクやバイキングなどを定期的に取り入れています。	献立は本部で作成しているが、利用者が楽しめるよう、好きなものを順番に提供したりバーベキューやバイキングを採り入れている。いなり寿司やホットケーキを一緒に作る機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	都度、食事の摂取量と水分量はチェックしています。無理なく摂取できるように個別に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にうがいされています。スタッフが見守りや支援をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けやポータブルトイレを使用し出来ないところは支援しますが、可能な限り自立に近い支援を心掛けています。	声かけや排泄介助の必要な方は半分程度で、必要な方は排泄状況を記録してパターンを把握している。できる限りおむつを使わないよう支援しており、部屋でポータブルトイレを利用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、水分量や食事の量などを確認し、スタッフで工夫しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望を取り入れ入浴を支援しています。	火曜日と金曜日が入浴日で、朝から夕方まで全員が入浴しており、途中でお湯を入れ替えている。声かけを工夫して入浴を促しているが、拒否がある場合などは無理強いせず次回の入浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望のお部屋作りをし、落ち着けるような場所を提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する情報はスタッフ共通で取り組み、利用者へ合った支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の希望をなるべく取り入れるように心掛け、気分転換できるように支援しています。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事など、利用者参加の外出や個々の希望を取り入れた外出レクを行うようにしています。	普段は近くの商店街や周辺を散歩しており、車いすの方も一緒に出かけている。一人で通院や買い物に出かける利用者もいる。年間行事では、外食レクや花見、紅葉狩り、居酒屋、工場見学、サファリパーク、百合が原公園など様々な場所に出かけ、楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思を尊重し、施設では最小限の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一連の動作が難しい場合は、本人が少しでも関わられるような支援を働きかけています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけ、置物、雰囲気に配慮しながら、利用者様が落ち着き、過ごし易い環境を提供しています。	居間の大きな窓から光が差し込み、テーブルやソファ、テレビを利用者が落ち着いて過ごせるように配置している。手作りの飾りが豊富で、家庭的な雰囲気や季節感が感じられる。階段などにセンサーやカメラを付けて利用者の安全面に配慮できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、2階にはいつでも使えるマッサージ機やイスを置いていつでもくつろげる環境を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの使用してきたものを持ち込んでいただき、アルバム、写真など昔の思い出と一緒に過ごせるように支援しています。	ベッドは備え付けられているが、テレビや家具などは利用者の使い慣れた物を持ち込んでいる。人形や趣味の品物を自由に置いて、居心地よく過ごせるような居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が出来る事を残せるように、日々の生活で生き甲斐や楽しみを取り入れ、スタッフ一丸となり取り組んでいます。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ライフケア北倶楽部

作成日：平成 27年 7月 16日

市町村受理日：平成 27年 7月 17日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	定期的に法人理念を振り返り、職員間で更に理解を深めるように期待したい。	スタッフ全員が基本理念及び4つの思いをよく理解し、その思いでサービスの提供を心掛ける。	スタッフミーティング等で具体的に利用者様の事例検討する際、基本理念及び4つの思いを照らし合わせ検討する。また日々、朝礼や終礼時にスタッフ全員で唱和する機会を設ける。	3カ月
2	4	テーマやミニ勉強会など具体的な内容に沿って事前に聴き取り、参加が難しい家族の意見や疑問などが会議に反映できるような取り組みに期待したい。	出来る限り運営推進会議に参加できない方の意見に耳を傾け業務の改善に努める。	ご家族に対しては、本社主体で定期的な各種アンケート等を実施し、また研修会等で使用した簡潔にまとめた資料を配布する等、運営推進会議に直接参加できない場合でも、間接的に関わられるような対応を行う。	6カ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。